

川崎市議会議員

本間 賢次郎

市政レポート No. 6 (平成30年6月号)

事務所 〒210-0834 川崎市川崎区大島 3-14-17
TEL044-742-8072 FAX044-211-1081

ごあいさつ

新年度スタート以降、町内会や商店街等、地域のさまざまな団体の総会が開かれ、多くのご相談やご要望を頂いております。行政への照会や議会での質問、議論を通じて、皆様のお役に立てるよう努めて参ります。

さて、平成30年第2回定例会が6月4日から27日までの予定で開会します。私は、町内会等の地域活動、国が推進する「キッズウィーク」への対応、2020年の東京オリンピック・パラリンピック等に着目し、臨んで参ります。

写真=文教委員会・大阪市視察にて発言する(5月9日、大阪市役所)

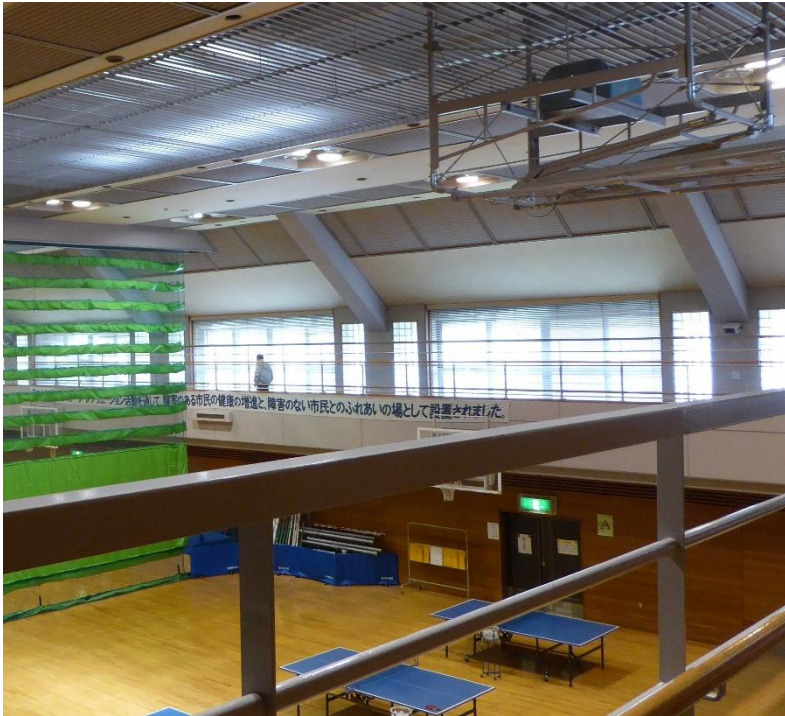


パラスポーツの環境の充実にに向けた取り組みの推進を

去る5月9日・10日に文教委員会にて大阪、京都の両市を視察致しました。大阪市では、「土曜日授業の実施及び長期休業期間の短縮」、「LGBT支援の取り組み」、「こどもの貧困対策推進事業」について、京都市では「京都市障害者スポーツセンター」を視察し、それぞれの担当者と質疑応答を行いました。今号の市政レポートでは、京都での視察報告と合わせ、パラスポーツ(障害者スポーツ)の充実にに向けたポイントをお伝え致します。

川崎市は、2020年東京オリンピック・パラリンピックでは競技・試合の開催こそありませんが、大会前には英国代表が等々力陸上競技場等を使用して事前キャンプを行います。また、大会を契機とした取り組み「かわさきパラムーブメント」を推進しており、2020年の東京大会で得た経験をレガシー(社会的遺産)として将来へ残し、誰もが暮らしやすいまちづ

くりを目指しています。その一つとしてパラスポーツの施設整備は重要な課題です。しかし、現在、本市にはパラスポーツに特化した施設はありません。そこで、今回の「京都市障害者スポーツセンター」(写真)の視察は大いに参考になるもので、今後の市政に反映できるよう活かして参ります。



京都市では1980年代に「障害者スポーツの拠点が必要ではないか」との議論が起こり、88年に温水プールが完成して同年秋に行われた全国身体障害者スポーツ大会の水泳競技が開催されました。その後、重度の障害のある方が運動できる「重度体育室」など全国に先駆けた工夫のなされた設備

の整備が進められました。パラスポーツの指導者が所属しパラリンピック選手を輩出するなど、高いレベルの利用者もいます。一方、スポーツ施設として充実しているとともに文化事業にも力を入れ、さまざまな活動を通して交流が行われていることも大きなポイントです。

先述のとおり、2020 東京オリンピック・パラリンピック前には英国代表が川崎市内にて事前キャンプを行います。特にパラリンピック選手団は、等々力陸上競技場の他、地元・川崎区のカルッツかわさき、富士通スタジアム(川崎球場)の利用も想定しています。そして、この度の経験を活かした施設運営をレガシーとして受け継いでいきます。**本間賢次郎**は、既存施設を有効活用することも重要ですが、パラムーブメントの理念の下で障害のある方がより安心して利用できる施設を整備することは大きな意味を持つと考えます。2020年東京大会前に整備されることが理想的ですが、英国代表を受け入れた経験に基づく施設を整え、障害のある市民と障害のない市民とがパラスポーツ等を通じてふれあい、「心のバリア」を取り除き、誰もが生き生きとした社会の創造を目指して、取り組んで参ります。